
開会の辞

皆様

バルザックとフローベールというフランスの二人の大作家のテキストに関する国際研究集会の開会式でご挨拶させていただくことはこの上ない喜びです。「バルザック、フローベール 作品の生成と解釈の問題」という題名に容易に見て取れますように、この学術集会は文学テキストの学際的研究を確固として志向するものです。これはまた我々が過去5年間に一貫して進めてきた共同研究プロジェクトの主調音でもあります。

選抜された研究グループに対して、5年間にわたって潤沢な予算を提供するという競争的プログラムを日本の文部科学省が開始したのは、ほぼ6年前のことでした。「21世紀COE」というプログラムです。我々は光栄にも卓抜したプロジェクトとして選出され、さまざまな態様の伝達行為、つまり文学、図像、身体所作などの伝達行為についての統合的な一般理論を模索する共同研究に膨大な時間を費やしてきました。このプロジェクトは大成功を取め、先日結果が公表された事後評価では最優秀の評価を獲得しています。2007年に文部科学省は「グローバルCOE」という名で第二弾の5か年間の競争的プログラムを発表し、我々は「テキスト布置の解釈学的研究と教育」という申請書を提出しました。これについては、後で松澤教授が我々の熟慮の結果の概要をお話してくれることと思います。幸いにして、我々は成果の見込まれるプロジェクトの選出数が減らされて、以前よりも難易度の倍加したこの選抜に合格いたしました。

いま開会式を行っている本研究集会はこの新たな枠組において、天野教授が英語歴史言語学協会（SHELL）と共催で去る9月に開催した研究集会に続き、第2回国際研究集会として執り行われるものです。二人の大作家についての多くの優秀な専門家の方々に勇躍ご参加いただいたことを本プロジェクトの責任者として喜ばしく思う次第です。エリック・ボルダス、フィリップ・デュフル、ジゼル・セジャンジェールの各氏はフランスからおいでになりました。ステファンヌ・ヴァッション氏はカナダから、エリック・ル＝カルヴェーズ氏はアメリカからのご参加です。この極東の国に来るために長旅を敢えてすることをご承諾くださったことに心から感謝致します。また、国内からのご来訪の講演者である、村田京子、荒原由紀子、黒川美和、澤田肇、沢崎久木、和田光昌、菅谷憲興の各氏にも御礼申し上げます。

最後になりましたが、この大変重要な研究集会を実現するために膨大な準備作業を行ってくれた同僚の松澤和宏と鎌田隆行のお二人に対して感謝します。

ご清聴ありがとうございました。

グローバルCOEプログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」拠点リーダー
名古屋大学大学院文学研究科教授 佐藤 彰 一